

弥次喜多道中（1956）

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1956/08/22

【解説】

市川雷蔵と林成年が十返舎一九の『東海道中膝栗毛』でおなじみ弥次さん喜多さんに扮し、てんやわんやの珍道中を繰り広げる。「月夜の阿呆鳥」の民門敏雄が脚本を書き「恋すれど恋すれど物語」の斎藤寅次郎が監督した。

神田八丁堀の長屋に住む弥次郎兵衛と喜多八の二人は、家賃を払えず穴を掘って部屋を逃げ出してしまふ。オランダ熱にかかり声が出なくなった喜多八は医師の細野久庵を訪れるが、すでに久庵は特効薬である究理石を持って京へ出発した後だった。弥次喜多コンビは久庵を追って京へ向けて出発。究理石を狙う舶来屋の浪人も後をつけていた。久庵に追いつき喜多八は声が出るようになるが、久庵は山道で浪人に斬られ、その嫌疑が弥次喜多の二人にかけられてしまい…。

【クレジット】

監督 斎藤寅次郎

製作 武田一義

企画 山崎昭郎

脚本 民門敏雄

撮影 今井ひろし

美術 中村能久

音楽 宅孝二

出演 市川雷蔵

林成年

堺駿二

花菱アチャコ

島倉千代子

阿井美千子

田端義夫

小町瑠美子

江島みどり